

円居

まどろ

令和5年11月28日(火)
備前市立備前中学校
校長 藤森 卓麻
0869-64-3365

自分で考える・決める

― 生徒会の挑戦は続く ―

■臨時生徒総会 11月17日

前回触れた(9月7日発行『円居』)頭髪

に関する校則について、臨時生徒総会が開

かれました。そこで採

択された全校生徒の意

見としてまとめられた

「校則改定提案書」を、

後日校長室で受け取り

しました。



子どもたちが大切にしたいことは、いろいろな校則全てに通じていくことになる「理念」になるもの、「決まりの有無にかかわらず、その場に応じて正しく判断する」ということです。そもそもきまりって何だ、備前中のきまりはどうあるべきか、という



新旧生徒会役員から提案書について説明を受けました。

問いから導き出されたものだと思います。それがそのままする校則に関する校則にう提案です。改定の意図(詳細

『校則改定提案書』から

◎ 改定内容 決まりの有無にかかわらず、その場に応じて正しく判断する。

1 改定の意図・経緯

現状のままでは、校則で決められているから、という理由で「やる」「やらない」を判断するようになってしまう。細かく決められていなくても自分で考え、正しく判断できる生徒でありたい。

2 改定に関する具体的な内容(生徒会執行部で話し合ってきたこと)

- (1)「その場に応じて正しく判断する」とは「自分で考える」ことだが、自分で考えたらどんな髪型でもよい、というわけではない。
- (2)給食(衛生面)、体育や理科の実験、ヘルメットをかぶるとき(安全面)など、支障がでる場合には結ぶなど、ふさわしい対応をするべき。
- (3)「学校」がどういう場なのかということも考える必要がある。あまりにも極端な髪型は避けるべき。
- (4)実施は12月からとし、それまでに生徒会執行部で啓発活動を行う。

3 具体的な改定案作成までの流れ

- (1)生徒総会で議題に上がる。
- (2)夏休み中、他校の校則改訂の状況や、現在の校則ができた経緯などを執行部で調べる。
- (3)執行部で現在の校則の問題点、今後の自分たち(生徒)の望ましい姿を考える。
- (4)全校生徒にアンケートをとり、「自分たちで正しく判断する」ことの大切さを確認する。
- (5)「決まりの有無に関わらず、その場に応じて正しく判断する」という理念のもとに、実施後起こり得る問題点、考えておくべきことなどを話し合う。
- (6)「衛生面」「安全面」「学校という場の特性」などについて考える。
- (7)新執行部と共通理解。
- (8)校長先生に中間報告。
- (9)理念がそのまま頭髪の校則になることを確認。
- (10)臨時生徒総会で提案内容を全校生徒に諮り、可決される。

4 今後行う予定の活動など

- (1)事前にできること
新しい決まりや注意点の呼びかけ等。
- (2)事後にできること
執行委員会や中央議会の際に現状確認をして検証を続ける。

は(下部参照)を含め、生徒たちからの提案を受けて、我々教職員でも研修・会議の時間を設けてお互いに議論をし、この職員会議を経て子どもたちの提案が正式に認められました。

これからは、ツーブロックがどうかかくり方がどうかではなく、「決まりの有無にかかわらず、その場に応じて正しく判断する」こととなります。生徒たちの「提案書」の中にありますが、自分で考えるということは、考えたら何をしてもいいとい

うわけではありません。今回の決定は「校則が緩和された」のではなく、「自分たちで責任を持って判断し、自ら行動する力をつけるための場面ができた」と捉えてほしいです。自分たちで考えて決めたこのあとは、自ら実行することにつなげないといけません。生徒にとっても我々教職員にとっても、ここからが肝心です。

― 教職員にとっても ―

生徒にとっても挑戦ですが、我々教職員にとっても挑戦です。校則が学校の秩序を

守るためだけの都合の良いものになってないか、校則の本質的な部分を無視して、結局校則に振り回されていないか…。備前中学校で最終的に身につけてほしい力は、『将来社会人として自立するための力』です。具体的には次の四つの力、「自分で考える力」「自分で決める力」「自ら実行する力」「自己共に受け入れる力」です。自分で考えさせて決めさせるには、そういう場面がないといけません。私たち教職員自身が、覚悟を決めて責任を持って、授業をはじめ様々なところで、子どもたちに考えて決めさせる場面を設定しないといけないと考えます。もちろん我々自身が常に「考える」姿勢を持っていないといけません。長い時間残ってきたものには、大切なことがあるはずですが、根拠のない「今まで通りでいい」は通用しません。今回の校則改定は、我々教職員にとっても挑戦です。

― ご家庭・地域にとっても ―

この取組がうまくいくかどうかは、ご家庭あるいは地域の皆様のご協力が欠かせません。私たちは、自分が持っている「ものさし」に当てはまらない事柄が目前に現れると、なんだか落ち着かない感じになったり、不安な気持ちになったりすることがあると思います。その「不安」の本質に目を向けて、その時の子どもたちに対して本当に必要な支援、関わりをしていくことが、我々大人にとっても必要なものかもしれません。いかがでしょうか。



↑ 備前中HP
学校がご覧
いただけます。

